

平成 26 年 5 月 13 日

各 位

東京都港区虎ノ門四丁目1番28号
虎ノ門タワーズオフィス
フィンテック グローバル株式会社
代表取締役社長 玉井 信光
(コード番号：8789 東証マザーズ)
問い合わせ先：取締役 執行役員 経営管理部長 鷺本 晴吾
電話番号：(03)5733-2121

特別利益（負ののれん発生益）の計上及び
第2四半期連結累計期間業績と前年同期実績との差異に関するお知らせ

当社は、特別利益（負ののれん発生益）を計上することになりましたのでお知らせするとともに、平成26年9月期第2四半期連結累計期間（平成25年10月1日～平成26年3月31日）における業績につき、業績予想をしておりませんので、前年同期との対比について下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別利益（負ののれん発生益）の計上について

当社は平成26年9月期第2四半期連結累計期間において、当社子会社を通じて、岡山建設株式会社の株式を取得し、同社を連結子会社としました。株式取得時の同社の時価純資産額が取得価額を上回ったため、四半期連結財務諸表上、特別利益（負ののれん発生益）として178百万円を計上しました。

2. 平成26年9月期第2四半期連結累計期間（平成25年10月1日～平成26年3月31日）業績と前年同期実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前年同期実績 (A)	百万円 608	百万円 △242	百万円 △176	百万円 △64	円 銭 △0.54
今回発表業績 (B)	1,670	841	913	1,029	8.45
増減額 (B-A)	1,061	1,083	1,089	1,094	—
増減率 (%)	174.6	—	—	—	—

(注) 当社は、平成26年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき100株の割合をもって株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算定しております。

3. 差異の理由

【売上高】

企業投資では、大型投資事案の投資回収について、対象企業の業績好調により更なる企業価値向上を待つため前期には見送っておりましたが、当第2四半期において投資回収に至り、本投資回収により総額12億円の売上を計上しました。

また、投資銀行業務、アセットマネジメント業務においても、各種アレンジメント業務受託等により、売上高が前第2四半期と比べて大きく増加しました。

【営業損益、経常損益】

売上原価については、案件紹介にかかる支払手数料や営業投資有価証券評価損が発生したものの、再保険事業のCrane Reinsurance Limited(以下、「Crane」という。)の仲裁が和解となり、保険契約準備金等の戻入により△174百万円を計上したことで、売上原価は4百万円となり、売上総利益は1,665百万円(前年同期比210.8%増)となりました。販売費及び一般管理費については、前第2四半期比で人件費が72百万円減少したものの、Craneの仲裁関連費用の影響で支払手数料が42百万円増加し、また貸倒引当金繰入額は3百万円であったものの貸倒引当金戻入額があった前第2四半期比では98百万円増加するなどの要因により、824百万円(前年同期比5.9%増)となった結果、営業利益は841百万円となりました。経常損益については、為替差益72百万円を計上したことなどにより、913百万円の経常利益となりました。

【四半期純損益】

1. に記載の特別利益178百万円を計上したことなどにより、四半期純利益は1,029百万円となりました。

なお当第2四半期連結会計期間において、株式取得により連結子会社化した岡山建設株式会社、岡山建設ホールディングス株式会社、株式会社ユニハウス、株式会社スリーオーク、ユニハウスホールディングス株式会社については、当該各連結子会社の貸借対照表のみ連結しているため、当第2四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書には当該各連結子会社の業績を含んでおりません。

以 上